

生ごみ等の3 R・処理に関する検討会の開催について

環境省廃棄物・リサイクル対策部

1. 開催の趣旨

生ごみ等のバイオマス系廃棄物は、堆肥・飼料などへの再生利用や、熱・電気に転換するエネルギー利用の可能性があり、循環型社会及び脱温暖化社会の実現を目指す上でそのリサイクル・エネルギー回収は重要な課題である。このような生ごみ等のバイオマス系廃棄物については、循環型社会及び脱温暖化社会の実現を目指すため、生産・消費・廃棄物処理・エネルギー供給といった社会システムの転換や必要なインフラ整備などに関する中長期的な方向性を明らかにした上で、早期にできることから順次、準備に着手し、導入を開始していく必要がある。

このため、生ごみ等バイオマス系廃棄物の3 R・処理に関する方向性を明らかにし、どのような政策手段を講ずべきかについて、検討するため、廃棄物・リサイクル対策部長の勉強会として、専門家・関係者からなる生ごみ等バイオマス系廃棄物の3 R・処理に関する検討会を開催する。

2. 主な検討項目

(1) 生ごみ等バイオマス系廃棄物の適正な循環的利用のあり方・方向性

- ◆ 物質循環の確保、最終処分量の最小化、地球温暖化防止を重視しつつ、生ごみ等バイオマス系廃棄物の3 R・エネルギー回収・適正処分の全体像を整理する。その際には、腐敗性、発生源ごとの品質の違いといった生ごみの特性や、最近の地産地消の考え方、地域経済の振興への貢献、大都市圏と地方圏の違いなどを十分に踏まえる。
- ◆ また、消費者、処理業者、排出事業者、生産者、地方及び国の役割を検討する。

(2) 導入が求められる政策手段

- ◆ 食品リサイクル法など制度的な取組みや、市町村の廃棄物行政における取組（循環型社会形成推進交付金の活用）などを検討する。

3. 検討会の構成及び検討の進め方

- ◆ 検討会の構成については、別紙のとおり。
- ◆ 本年9月末に第1回を開催し、来年夏頃を目途に生ごみ等の3 R・処理のあり方等についてとりまとめを行う。

別 紙

生ごみ等の3R・処理に関する検討会委員

- 浅井 慎次（名古屋市環境局施設部主幹）
石川 雅紀（神戸大学大学院経済学研究科教授）
伊藤 慎一（株サンデリカ総務本部総務部次長：（財）食品産業センター）
犬伏 和之（千葉大学園芸学部生物生産科学科教授）
近江 昭（日本環境保全協会副会長）
大塚 元一（（社）全国産業廃棄物連合会専務理事）
川島 博之（東京大学大学院農学生命科学研究科助教授）
酒井 伸一（京都大学環境保全センター教授）
崎田 裕子（ジャーナリスト・環境カウンセラー、
NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長）
庄司 元（（社）全国都市清掃会議調査普及部長）
瀬川 道信（京都市環境局地球環境政策部循環型社会推進課長）
中井 尚（（社）日本フードサービス協会事務局長）
堀尾 正靱（東京農工大学大学院共生科学技術研究部教授）
森内 有二（株ライフコーポレーション首都圏総務部総務課長）
山口 秀和（株セブン・イレブン・ジャパン総務本部環境推進部総括マネージャー）
山田 久（全国清掃事業連合会専務理事）
山田 正人（国立環境研究所最終処分技術研究室主任研究員）